

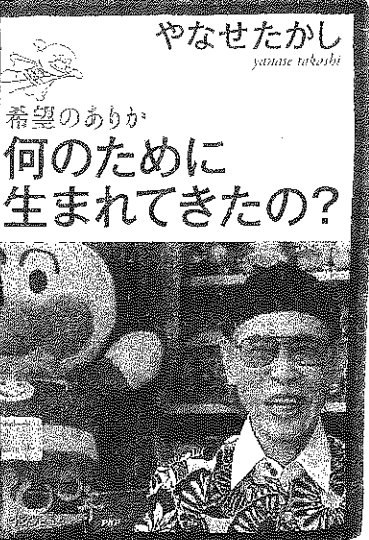
図書館だより

大枝中学校
2025(令和7)年6月20日

こんな本もあります。ちょっと勉強してから祇園祭を観に行くと楽しさ倍増!

祇園祭は、世界で一番長く、1100年以上続いています。

NHKの朝ドラ「あんぱん」のモデル、やなせたかしさん。



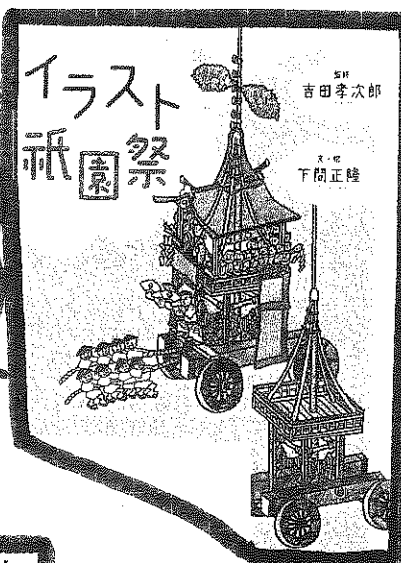
家康の城図鑑 (栗原響大 KADOKAWA)

<内容紹介> みなさんは、「お城」と聞くとなにを思い浮かべるでしょうか。城の見方に「不正解」はありません。知れば知るほど楽しみ方が増えていく……それこそが城めぐりの醍醐味です。あなただけの「城の楽しみ方」を探してみましょう。

見た目が気になる (河出書房新社 編)

(内容紹介) 人はどうして見た目が気になるのでしょうか。「見た目」についてとことん考えた26人それぞれの言葉を通して、今までと違う視点で、見た目と向き合うきっかけになればうれしいです。

まだまだ、おもしろい本がいっぱいの大枝中学校図書館から、本を紹介しま〜す! (新しい本もまた入ってきたら紹介しますので、少しお待ちください)



イラスト祇園祭

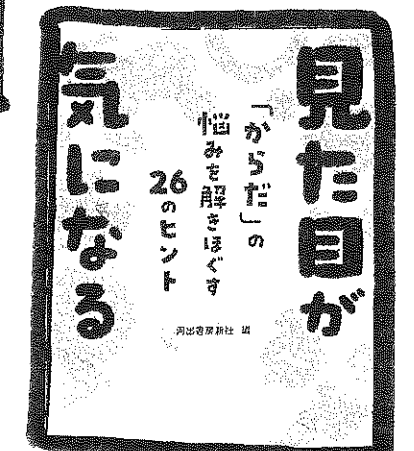
(文・絵 下間正隆 京都新聞出版センター)
<「あとがき」より> みなさん、祇園祭とせけば何を思われるでしょうか? 美しく飾られた山や鉾、人々への宵山、炎天下の巡行などでしょうか? その素晴らしさをイラストで伝えることができればと思い、この本を作りました。

何のために生まれてきたの? (やなせたかし, PHP)

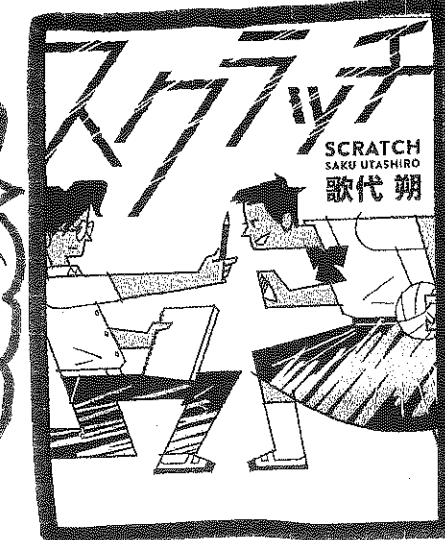
本の中を少し紹介します。
あのですね、この世界は「運・鈍・根」なんです。ですから「運」がよくなくちゃいけない。そしてあんまり器用に、何でも簡単にできるといふんじゃなく、いくらか「鈍」であって。それからあと大事なものは「根」。つまり、根気よくやらなくちゃいけない。



著者・栗原響大のプロフィール
2009年生まれ。松江観光大使。「お城博士」ちゃんとして人気に、日本全国350城以上めぐり、お城のイベントでは大人相手に講演をする。



コロナ禍に黒く塗りつぶされた中三の夏。その下、それぞれの鮮やかな日常が埋まっている。

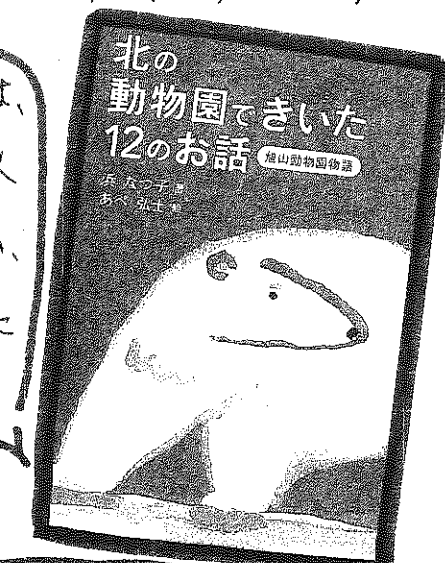


スクラッチ (歌代 朔 あかね書房)

(ストーリー) コロナ禍で「総体」が中止になったバレー部キャプテンの鈴音。美術部部長の千咲は出展する予定の「市郡展」も審査が中止。コロナ禍のなかでもがきながら自分たちの生き方をつかみ取っていく中学生たちの、疾走する「爪痕」を描く物語。

“どうぶつえん日記” (京都新聞、毎週金曜日に掲載中) → 図書館前廊下に掲示しています。関連の本も置いてあります。(貸出OK) ぜひ、ごらんくださ〜い!!!

ここで語られるお話は、旭山動物園で働く人たちが、動物と出会い、考え、気づかされてきたもののエッセンスです。



北の動物園できいた12のお話 (柴 なつ子 角川書店)

(本文より) 動物たちのささやき。「人間さん、そんなにいばってちゃ、つまらない動物になっちゃうよ」——。なぜ、旭山動物園に多くの人が集まるのでしょうか? それはたぶん、ここでは人間があんまりいばっていないからだと思います。いばっていない人間と動物たちのお話をきいてください。



空のしくみ (荒木健太郎 朝日新聞出版)

<内容紹介> 気象情報は、私たちが天気に振り回されない生活を送り、災害から身を守るために有効です。美しい空や雲に出会うために普段から気象情報に触れていれば、いざというときに備えられるのではないかと思います。(荒木健太郎)

一冊でわかるアメリカ史 (関 眞興 河出書房新社)

(内容紹介) 日本と関係の深いアメリカ合衆国は、良い意味でも悪い意味でも、世界に君臨しています。それはゆるぎない事実です。でも、国の歴史は250年に足りません。アメリカがなぜここまで大きくなったかは、意外と知られていません。本書は、「アメリカって何だ」と、初めて思った人に向けて、その歴史をわかりやすく紹介します。



他にも、中国史・フランス史・イタリア史・イギリス史・ロシア史、があります。